

読書のすゝめ

その7 R2 4 / 14

新任の先生紹介⑥

鈴木裕美先生（1年7組副担任・国語）



『聴く』ことの本質 鷲田 清一

この作品は、以前勤めていた高校の授業で扱ったことがこの本との出会いです。私は学校の先生という仕事をしていますが、人に何かを伝えたり、話したりすることが苦手です。最初は学校の先生になって国語の授業以外で生徒と接するのが不安でした。この作品に出会ってまずは、相手の話や思いを受け止め、相手の鏡になってその人の持つ思いと向き合わせるようにさせてあげることが大事だということを自分で少し自分を肯定できたような気になりました。人との会話で自分が「いつぱい話さなきゃ」ってプレッシャーになってしまう人多いと思いますが、実は「聴く」ということも大切でそこから始めてみるのもおすすめです。



湯浅洋之先生（1年2組副担任・農業）



『新版 社会人として大切なことはみんなディズニーランドで教わった』 香取貴信

香取貴信氏の講演を聴く機会があり、慣れにあらわにかかれないで何事にも「一生懸命」に取り組み大切さについて改めて思い起こされました。これから社会に出る皆さんに、働く上での基本的な心構えを説いた本ですので、ぜひ読んでほしいと思います。作者がディズニーランドで仕事をするなかで、人との出会いや体験から学んだことが、読みやすい文体でキャスト（スタッフ）の思いやディズニーのサービスについて書かれています。さらに、この本を読むとディズニーランドの人気の秘密もわかると思います。



小沼幸子先生（1年6組副担任・芸術）



『心の中がグチャグチャで捨てられないあなたへ』 ブルックス・パーマー

アメリカの片づけコンサルタントである著者は、美大生のときの教授から「作業場の整理整頓を心がけて美意識を高めよ」と教えられて、片づけの意義に目覚めたとのこと。なんだかやる気がわいてこない、モノを捨てられないのは、ゴミが貯まっているからとか。心のゴミを捨てて、自由になりたくなくなった時には是非読んでもらいたい一冊です。新年度です。心の中も整理をして、前へ進んでみませんか。



内桶怜奈先生（3年8組副担任・数学）



『数学ガール（数学ガールシリーズ1）』 結城浩

大学に入ってから一番初めに読んだ本で、今までの本の存在を知らなかったことを後悔しました。当時、分からない部分もありましたが、高校時代に学んだ数列や関数が融合する未知の世界があると知り、ワクワクしながら読み進めたのを覚えています。魅力の一つは、丁寧に読者のことを考えた、作者である結城浩さんの文章にあると私は思います。



数学ガールの秘密ノートシリーズは、物語を読んでいるうちに高校数学の内容を理解できるので、高校生（読書は好きだけど数学が苦手な人も）のみなさんにもおすすめです。